

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 NPO 宇都宮市国際交流協会

臼井 佳子

1 事業の趣旨・目的

- (1) 難しい指導の一つとされている外国人に対する漢字学習の指導手法を学び、ボランティア日本語教室での実践に役立たせる。
- (2) 対象学習者別の漢字学習用教材の作成をグループ毎に実践する。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
4月25日	交流協会 ミーティング コーナー	山口由紀子 富永事務局長 村田 孝 櫻井 宏美	1、事業計画書作成 2、準備事項抽出 3、必要経費検討	1、基本日程の決定。 9月～12月土曜午前 2、研修テーマの区分。 成人、児童、生徒向け
6月22日	交流プラザ 懇話室	山口由紀子 鈴木 律子 村田 孝 櫻井 宏美	1、研修スケジュール 2、講師別テーマの 振り分け調整 3、会場確保 4、運営員役割分担	1、月2回、総計9回とする 2、講師リストと折衝開始 3、日程別に4ヶ所を確保 4、外部講師のメールに よる企画参画を了承
7月20日	交流プラザ 懇話室	山口由紀子 鈴木 律子 成原 文子 村田 孝 櫻井 宏美 神山 英子	1、講師名決定と日程 2、研修日別運営 委員と補助者決定 3、テーマの最終決定	1、一部研修日の変更 2、外部講師と補助者との 打合せ8月16日までに 3、研修案内状原稿作成
8月16日	交流プラザ 懇話室	鈴木 律子 成原 文子 村田 孝 櫻井 宏美	1、講師別研修内容 の検討確認 2、経費予測と確認	1、9月10月研修の講師 決定、内容承認 2、現状研修参加申込み 人数確認(26名)

8月31日	交流プラザ 懇話室	山口由紀子 鈴木 律子 成原 文子 村田 孝 櫻井 宏美	1、研修参加者確認 2、外部講師との 最終内容確認 3、会場設営方法の 検討と備品準備	1、申込者27名プラス2 2、11月12月講師決定 と内容承認 3、プロジェクター、パソコ ン手配 4、予測経費の承認
-------	--------------	--	---	--

【写真】



3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 漢字学習の指導法短期集中講座と教材作成の実践
- (2) 研修の目標 漢字指導法の習得と独自教材の作成実践
- (3) 受講者の総数 29人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳 日本25人, 中国2人, その他2人)
- (4) 開催時間数(回数) 27 時間 (9 回)

(5) 参加対象者の要件 宇都宮市及び近隣市町村の日本語指導支援ボランティア

(6) 受講者の募集方法 ①宇都宮市広報 ②協会機関紙「情報スクランブル」
③現日本語指導支援ボランティア会員向けメール勧誘

(7) 研修会場

ア 講義 宇都宮市市民プラザ会議室、同プラザ懇話室。

イ 実習 宇都宮市総合福祉センター、市民プラザ多目的ホール。

(8) 使用した教材・リソース ①各講師作成パワーポイント
②漢字教材「かんじだいすき」
③個別コピー資料

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9月4日 9:30～ 12:30	漢字指導法留意点 ①アイスブレーキング ②漢字の難しさ、便利 さ、必要性。	国際交流基金 濱川祐紀代講師	29名
9月18日 9:30～ 12:30	成人漢字指導法 ①現状把握法 ②指導法カリキュラム	帝京大学 田中 瑠美講師	23名
10月10日 9:30:～ 12:30	同上教材作り ①ワークシート作成 ②授業で使えるアイデ ィア	帝京大学 田中 瑠美講師	19名
10月23日 9:30～ 12:30	漢字圏・非漢字圏 学習者向け指導法と 教材作り	国際交流基金 濱川祐紀代講師	16名
10月30日 9:30～ 12:30	小学児童に対する 漢字初期指導法 ①漢字の再認識 ②小学校で習う漢字数	宇都宮市はばたき教室 神山 英子室長	15名

11月6日 9:30～ 12:30	小学児童初期漢字 指導教材作り ①漢字指導案作り ②事例発表	宇都宮市はばたき教室 神山 英子室長	15名
11月20日 9:30～ 12:30	中学編入生徒に対す る漢字指導の在り方 ①生徒に合った教え方	国際日本語普及協会 金 早苗講師	12名
12月4日 9:30～ 12:30	中学編入用教材の 在り方 ①教科指導との統合化 ②ボランティアでの指 導法	国際日本語普及協会 金 早苗講師	14名
12月18日 9:30～ 12:30	教材作り総括と 協会蔵書教材活用 法	宇都宮市国際交流協会 理事 村田 孝日本語委員長	13名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

- ・ 日本語指導専門機関の専門講師の話が聞け、自己の能力向上が図れた。
- ・ 経験豊富な講師から実践的な体験談が聞けてとても参考になった。
- ・ 漢字学習指導の重要性を認識したと同時に、その難しさを痛感した。

② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・ 最も難しいとされる漢字学習指導法に敢て取組んだことに対して、市教育委員会及び当協会主催の日本語教え方講座講師より評価を得た。
- ・ 会話・文型指導主体のボランティア支援が、漢字指導実演および指導表作成により、漢字指導必要性の認識を高めたが、独自の教材作成には至らなかった。しかし、今後の取り組みや研修課題としてのノウハウ構築に役立った。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・ H23年度漢字指導方針の打ち出し
イ) 小学児童には「かんじだいすき」シリーズを主体に指導
ロ) 成人向け指導は生活会話主体の「たのしい漢字」初級・初中級をメイン教材とする。
ハ) 中学編入生徒に対する漢字指導は学習用語(5教科)指導を取り入れる。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- ・小中学校日本語支援ボランティア派遣事業に対する宇都宮市教育委員会からの受託事業化。

② H23年度活動計画における人材確保

- ・漢字指導カリキュラム化により、日本語教室等の漢字指導者増強。
- ・ボランティア初心者の漢字指導能力レベルアップと意識昂揚が図れた。

③ 漢字教材の交流協会蔵書充実と貸出システムを構築でき、ボランティアの独自補助教材づくりの一助になった。

(12) 今後の課題

- ①難しい研修テーマへの参加者増員方策と意識向上。
- ②支援初心者に対する能力向上方策。
- ③中学生徒に対する5教科学習用語指導可能者の増強。
- ④魅力ある研修テーマの模索と、ボランティア活動コミュニティ作り。